

令和 5 年 9 月 26 日現在

機関番号：27401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02318

研究課題名(和文) 現代インドの英語文学：インド社会の変容とグローバル化のはざままで

研究課題名(英文) Contemporary English Literature in India: In the Social Transformation and globalization of India

研究代表者

難波 美和子 (Namba, Miwako)

熊本県立大学・文学部・准教授

研究者番号：50336971

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)： 報告書『現代インドの英語文学 インド社会の変容とグローバル化の狭間で』を印刷・発行した。本報告書において、近代インドの英語文学の歴史を振り返り、植民地時代から現代にいたる英語文学の意義と変化を概説した。現在、日本語で読めるインドの英語文学史としては、現代までカバーするものがないため、意義のある内容になっていると考える。そのほか、現代英語文学の中の現代インドへの考察、文学祭のあり方、学校教育における英語文学、Netflixと英語文学について考察を行った。いずれも最新の状況について報告したものである。最後に、本研究中の研究交流の報告として、招聘研究者の講演録を掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

植民地時代から現代にいたるインドの英語文学の概要を網羅する報告書を作成した。本報告書は英語文学を理解するための入門的役割を持つと考える。また、現代インドの英語文学の多様性に注目し、文芸的作品だけではなく、「商業的」文学作品の評価を行ったことにも意義がある。文学作品の発表やマーケットの場としての文学祭の存在、メディアミックスや教育の状況も視野に入れている。

研究成果の概要(英文)：The research team was published the report, English Literature in Contemporary India: Between the Transformation of Indian Society and Globalization, on March 2023. It reviews the history of English literature in modern India and outlines the significance and changes from the colonial era to the present. The history of Indian English literature that can be read in Japanese does not cover up a full-length picture, so we think the contents are significant. In addition, we consider contemporary English literature in India, the circumstances of literature festivals, English literature in school education, and Literature in Netflix. All reports are based on the latest situation. Finally, as a briefing of research exchanges during this term, this report is included of the lectures which by we had invited researchers.

研究分野：English Literature

キーワード：現代インド 英語文学 南アジア India English Literature

## 1. 研究開始当初の背景

インドの英語文学については、「インド系英語文学」としての研究が行われてきたが、「インドの」文学としての視点には欠けるところがあった。

2013年度から2015年度に挑戦的萌芽研究「現代インド英語文学とグローバル化する英語」において、2000年代以降、インドの英語文学が享受する人口と構成する読者・作家の多様化に伴い、ジャンルの多様化、大衆化、さらにメディアミックスの動きが見られることを明らかにした。特にいわゆる「英語文学」の中にはあまり顔を出さない英語作品がインド国内において多数発表され、享受されていることを指摘した。本課題においては、この動きの流れを追うとともに、英語を媒介としたグローバル化が文学に与える影響を捉え、インドの英語文学が他の言語や地域と重層化していく様子を分析する。

## 2. 研究の目的

インドの英語文学を英語文学の「周縁」、あるいは分枝としてではなく、インドの文学の一つとして捉えなおしつつ、国境や言語・メディアを越えた「文学」としてダイナミックな動きをつかむことを総体としての目的とする。移民社会の複雑化によって、インド系英語文学の範囲が捉えにくくなっていることを踏まえ、インドの内外だけではインドの英語文学はとらえきれないため、「インドの英語文学」の定義づけにはこれまでも増して慎重さが必要である。インドにおける出版形態が多様化しただけでなく、ウェブ・マガジンの登場によって、インドの英語文学の広がりにはさらに大きくなっている。このような状況の中で、インド国内における「英語」「英語文学」の認識や読者・書き手の意識の変化、「世界文学」の中での位置づけについても考察する。

## 3. 研究の方法

文献研究により、インドの英語文学の歴史と文化的背景を明らかにし、代表的な英語作家の活動と評価を行う。現代における英語教育の成果や個別作家の活動、メディアのあり方に注目する。多数の作家を網羅することは不可能であるため、時代劇変化や長期的な活動に注目することになる。研究グループ参加者がそれぞれ関心の領域（ヒンディー語など他言語文学との関係、文学と商業価値、代表的作家活動、インドの英文学教育など）を取り上げ、情報交換を行う。インドの英語文学研究者との研究交流により、インド国内における「英語文学」に認識を理解する。

## 4. 研究成果

インドから研究者、作家、編集者を招聘し、学術交流のほか、一般向け講演を行い、インドの英語文学、インド文化と日本との関係についての理解増進を行った。

研究期間は新型コロナウイルスの流行によるロックダウンの影響を受けて2年間の延長を行った。最終成果報告として、インドの英語文学の同時代的潮流と歴史的变化についての研究を報告書にまとめた。報告書は、2023年3月に『現代インドの英語文学 インド社会の変容とグローバル化のはざままで』として印刷した。200年におよぶインドの英語文学の概観をまとめ、現代作家や英語教育における文学の取り扱い、メディアミックスと文学について幅広く取り上げている。

本報告書の目次とそれぞれの項目の執筆者は以下のとおりである。

### はじめに

#### インドの英語文学概観

- |   |                                       |       |
|---|---------------------------------------|-------|
| 1 | インド英語文学の歴史と発展                         | 森本素世子 |
| 2 | 現代インド英語文学の展開                          | 難波美和子 |
| 3 | 英語文学の作家たち                             |       |
|   | ・ラスキン・ポンド 自然と人びとの世界を描いて               | 森本素世子 |
|   | ・ウパマニユ・チャタルジーの <i>English, August</i> | 関口 真理 |

#### 英語文学とインド社会

- |   |                          |       |
|---|--------------------------|-------|
| 1 | インド英語文学(小説)の中のインド史と現代インド | 関口 真理 |
|---|--------------------------|-------|

- 2 インド文芸のテーマパーク、文学祭の商品価値 関口 真理  
3 インドの学校教育の「英語」科における英語文学 榎木 園鉄也  
特に Central Board of Secondary Education 課程「英語」科における 9 学年の教科書、及び第 12 学年修了試験における文学作品の取り扱いについて

インドの文学と日本

- 1 文学でつなく日本とインド 難波美和子  
2 出会いの百年：日本とベンガル デヴォリナ・ムケルジー  
～タゴール、武田ホリプロバ、村上春樹へ～ (関口 真理 訳)  
3 歪んだ時を正す刀 アルパナ・ミシュラ氏講演録 アルパナ・ミシュラ  
(小松 久恵 訳)  
4 「私の日本滞在」 アルパナー・ミシュラ氏日本滞在記(抄) アルパナー・ミシュラ  
(小松 久恵 訳)

むすびに代えて

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森本 素世子	4. 巻 第10号
2. 論文標題 モノージ・ダス「インドの聖河物語」(3) - ヤムナー川 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『チャンパの花』 インド児童文学の会	6. 最初と最後の頁 22-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Munish Tamang, 齋藤 一、青木 敬子、難波 美和子
2. 発表標題 English Literature Education in India, Past and Present, With Reference to the Japanese Experience
3. 学会等名 第72回日本英文学会九州支部大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森本 素世子  (Morimoto Soyoko)  (70191046)	東海学園大学・心理学部・教授    (33929)	
研究分担者	小松 久恵  (Komatsu Hisae)  (80552306)	追手門学院大学・国際学部・准教授    (34415)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	榎木園 鉄也  (Enokizono tetsuya)		
研究協力者	関口 真理  (Sekiguchi Mari)		
研究協力者	大工原（岩本） 彩  (Daikuhara-Iwamoto Aya)		
研究協力者	松木園 久子  (Matsukizono Hisako)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関